

第 22号  
(2月号)  
2015年  
2月1日

七里ヶ丘こども若者支援研究所  
**それが社会参加だ！**

住所：鎌倉市七里ヶ浜 2-31-12  
携帯：090-7212-4055  
Email: [qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp](mailto:qq5656r9@happytown.ocn.ne.jp)  
編集長：新舛秀浩  
発行責任者：滝田衛

特別寄稿 12月研修会「教育とは何か？を考える」をふりかえる 宮坂和彦さん（会員）

## 「様々な考えを許容できる社会に」

応援団長小幡さんの挨拶、滝田先生の「それぞれの気持ちを共有する事、お互いに言い合える場が大事」という言葉から研修会は始まりました。

島根三枝子さんのお話は、「日本の学校は「感性」を育てないと言われた」「『葉はぼたぼた落ちる』という自分の考えは×になる。（テストでは『葉はひらひら落ちる』が正解）表現はそれぞれでいいじゃないか」など実感がこもっていて、柔らかな口調とは裏腹に今の公教育に対する強い想いを感じました。また元校長先生の山本陽子さんは「その人にとって必要な物を得られるのが教育」「土台としての知識がないと、考えることも出来ない」という今と昔の学校の現場の視点から、先生から見た「集団性に基づいた教育観の良い面と悪い面」のジレンマも伝えていただき、視点の偏りなく問題の俯瞰ができました。



質疑応答は親御さんからの真摯な感想、とりわけ「子どものおかげでどう生きていくかに早め気づけた」という言葉に自分も考えさせられました。まさに、参加者約30人の気持ちを共有できる場になったと思います。

最後に会員の安川さん・副団長永野さんからの言葉で締め、研修会が幕を閉じました。感想としては、自分の頭で考えることが必要な時代の中で、今の公教育は経験の幅が少ないのではないか、子どもたち各々の考えを許容できる社会になっていかなければと考えさせられました。

（宮坂さん素晴らしい文章ありがとうございました。公教育にもっと幅を広げそれぞれの感性や考えが認められる社会を私も願っています：新舛）

最後に会員の安川さん・副団長永野さんからの言葉で締め、研修会が幕を閉じました。感想としては、自分の頭で考えることが必要な時代の中で、今の公教育は経験の幅が少ないのではないか、子どもたち各々の考えを許容できる社会になっていかなければと考えさせられました。

（宮坂さん素晴らしい文章ありがとうございました。公教育にもっと幅を広げそれぞれの感性や考えが認められる社会を私も願っています：新舛）

**コラム風** 就職や進学へ、この時期未来へ向けたチャレンジが始まる。だからこそ生きづらさを感じる人もいる。過去の体験へ引っ張られる PTSD(トラウマ)である。一方そこ(底)を抜けると楽になり、過去を語れる人もいる。30代のTさんは通信制H大学を卒業予定である。家庭と健康(アトピー等)に苦労を重ねてきたが、4年前より働きながら学びへの意欲を高め健康的にも回復しはじめた。大学では日本近代文学を学び、芥川龍之介研究に取り組んできた。僕はTさんから声をかけられ、昨春から卒業論文に寄り添わせて頂いた。専門ではないが久しぶりに芥川文学の幾つかを再読、期せずして文学論を闘わせることとなった。実は完敗で、芥川文学に惚れ込むとはこういうことかと感心させられた。あくまで彼女は作品論、僕はどうしても人物論となる。作品を忠実に読み込むことの凄さを彼女に教えられた。卒論は12月に提出できた。そして1月下旬、卒論口頭試問に合格との報告を受けた。おめでとうございました！ 卒業しても書くことに関わる仕事をしてほしいと願っています。



諸般の事情により“大交流会2月22日(日)”を延期し、8月に改めて開催いたします。協力者・会員の皆様に謹んでお詫び申し上げます。(滝田衛)



## 1月18日子ども若者応援団会議

こんにちは。代表の小幡沙央里です。まずはお詫びです。2月22日に企画していた交流イベントですが、諸々の事情により、延期することに致しました。8月30日を予定しています。そのイベントに向けてのスケジュールを話し合いました。時間をかけて、良いイベントを作ってゆこうと思います。

次にご報告です。私、小幡沙央里はしばらく代表の役を休みます。代わりに副代表である新舛、永野の二人が会を引っ張ってってくれます。私は新しいことにチャレンジします。代表は離れますが、思いは変わらず、子ども・若者の育ちを支えていきたい、すべての人が生きやすい環境をつかってゆきます。今までありがとうございました。



しばしお休みをいただきますが、これからも子ども・若者を応援してゆきます！皆さん一緒に素敵な未来をつくってまいりましょう。

## それぞれの風

○1月は3つの委員会に出席、「いじめ」「支援教育」「青少年自立」。一方講演も2つ「デートDV」「不登校支援」、2月も「若者の理解と支援」「子どもの理解(仮)」が続く。守備範囲ではあるがボールを取り損ね、心の空洞化を招く心境である。僕の言葉と内容は届いている？と。キャッチする側も自分の考えで受け取る。まして僕自身が一方的に語っているので、当然受け取る側は入り口で戸を立ててしまうのではないだろうか、と疑心暗鬼となる。社会学者大澤真幸氏(『社会は絶えず夢を見ている』)は「郵便物は届くのか」で知の伝達を問う。結論は「誤配、誤解されても届く。その覚悟のもとで、講義というかたちが意味を成す」と述べる。○「デートDV」は人権問題と考える。まして男女の醜聞と歪曲してはならない。男女が互いに愛を育む過程、互いに尊重し認め合う学びと理解の成長課題。現実には男子の女子差別と偏見がそこに横たわる、自戒。暴言や暴力は犯罪、我慢や忍耐は誤解。そこに解決はない。男女平等は互いの尊重と理解の深化にある。反論や批判を超えて互いの言葉に心の耳を傾けたい。

**編集後記**・僕のがままで別紙にエッセイを書かせていただいているのですが正直大変です。その分仕上がった際、感慨深い思いがあります。のたろんフェアが2月7(土)～8日(日)、横須賀市市民活動サポートセンターで開催されます。副団長の永野亜由美さんが副実行委員長です。会員の皆様も足を運んで楽しんでください。何か発見がありますよ！(新舛秀浩)

【ご参加ください】  
応援団会議は横須賀市市民活動サポートセンター 午後2時～4時。  
会員の自由な集まりです。

2月研究所開設日程(駐車場あり) 相談時間:10時～16時 土日訪問はご相談

2日(月)	相談	19日(木)	予約済み
5日(木)	予約済み	22日(日)	応援団会議
9日(月)	相談	23日(月)	相談
12日(木)	相談	26日(木)	× 他事業
16日(月)	× 他事業	28日(土)	応援団会議発送作業